

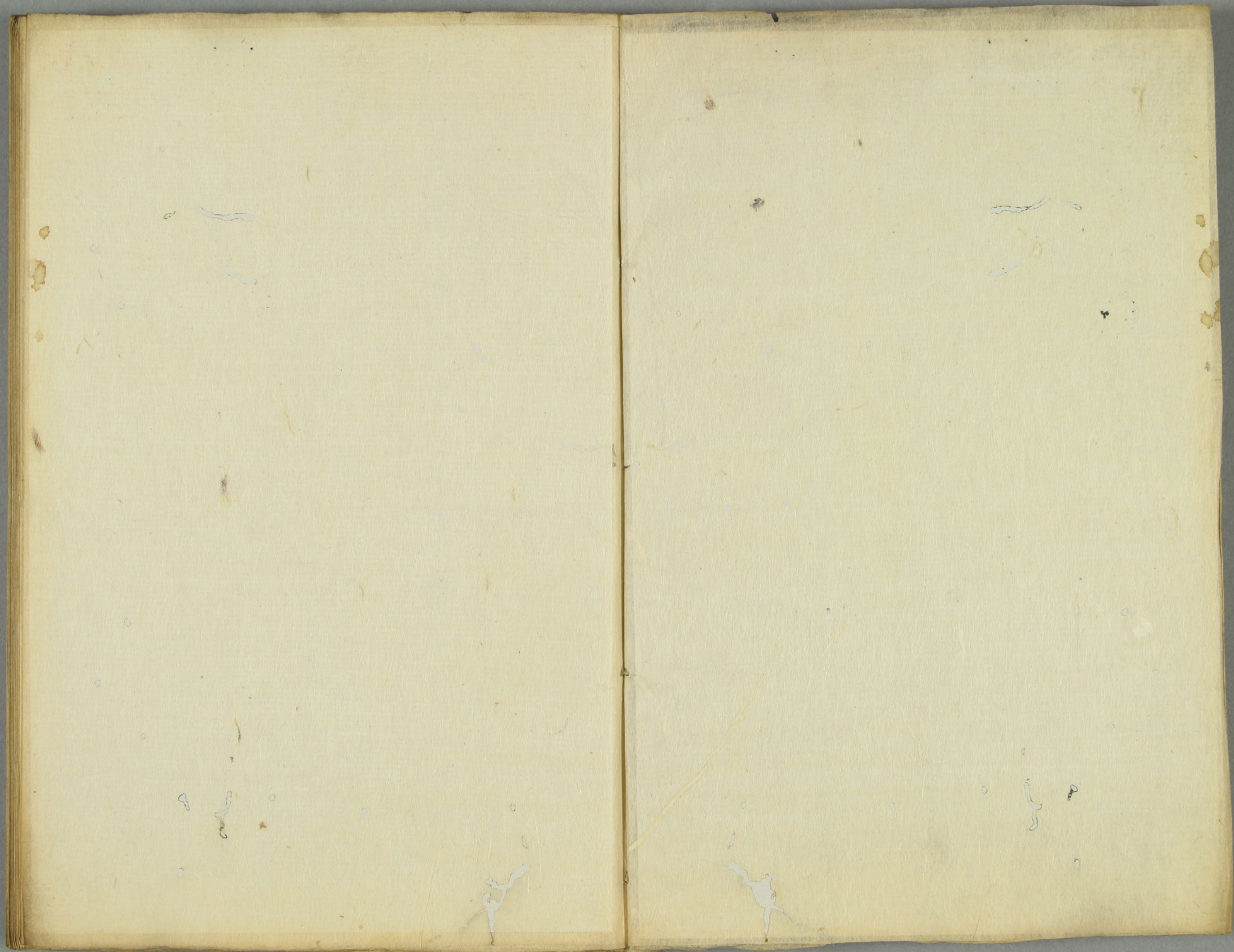


新聞鎖叢

庚午冬

服部文庫
イ 17
2189
59







全國一致之體と論スル派

夫建國立法は併各國土俗風習と異なるを以て其國ヲ守リ其  
民ヲ護シ自之ノ權カクテ獨之不羈ノ威柄ヲ備ヘ萬國ト並  
立ニテ對等ノ交際ヲ遂ル者其國ノ一致ヨリ出ルナシ蓋シ國ハ  
其民ト共ニ守ル所ニテ政府ハ其守衛保護ヲ任スル者ナリ  
故ニ其全國ノ租稅ヲ集メテ守衛保護ノ費ニ供ス即帝  
家政府軍備及ヒ外國交際ホ一切ノ費用ニ充ルハ是普通  
ノ公理ニテ國權一ニ歸シ國力共ニ合シ國威隨テ伸ルヲ得  
此國ノ國名所以ナリ故ニ其政府ハ專權私制ノ弊ナクテ  
公明正大ノ理ニ係ル是以首主ノ權人民ニ足テ自衛ノ威國  
家ニ備ル此政府名所以也而ノ其國ノ國名所以其政府名  
所以唯其上下一和一致自主ノ權ヲ有シ偏狹自私ノ陋ヲナク

忠孝惻怛ノ至誠有テ共ニ其國ヲ愛スルノ實アルヨリ根柢シ  
テ成就スル所ナリ此豈專擅ノ政治ニシテ能然ルヲ得ンヤ我  
中古 皇綱恒解シヨリ改権一ニ武門ニ歸シ郡縣ノ制変  
シテ封建ノ勢ヲナシ勢力相軋シ兵威相奪シ其間復倫  
紀綱常ノ觀ルヘキ者ナシ霸者跡ヲ接シテ歷世專擅ノ政治  
トナリ 王命ヲ奉ヒテ諸侯ヲ督ス其天道明義名有テ  
實ナシ習慣ノ久キ藩屏侯伯國名政刑有テ其臣民唯  
其封内ヲ以テ自國トシ或ハ甚キハ他州ヲ仇視スルニ至リ一  
家胡越ノ情状ヲナシ全國氣脉阻梗シテ殆ト四ノ五裂ノ勢  
ニ至リ 王憲振ルズ霸政日ニ衰ヘ季世澆薄因循風ヲ  
成シ権政詐術僅ニ一時ヲ調護スルニ過テ此時ニ當リ海  
外諸州締交互市ノ道開カザルヲ得ル運ニ際會セリ是

ヲ以テ人心乖戾シ國是不立物論鼎沸シ紛紜不止多ク國ノ  
損害ヲ招ケリ此皆霸政專擅ノ餘弊ヨリ自主ノ國權確  
立スル能ハザリシヲ天其衷ヲ誘イ 皇威再ヒ中興偉業ノ  
盛ヲ見ルニ至リ於是カ侯伯其私有ノ土地人民ヲ奉還シ全  
國漸郡縣ノ体ニ歸シ其國ノ守衛其民ノ保護皆 皇上ト  
其政府トノ委任スル所ナリ前日滲散セシ國權ヲ確立シ  
今離セシ國カヲ合併シ一致ノ政体ヲ立テ其守衛保護ノ  
道ヲ盡サシルヲ得サルノ責ニ任セリ而シテ其人民ヲ奉還セシ  
各藩此運ニ會シ名ヲ正シ實ヲ明カニシ毫モ私營スル所ナ  
ク勉メテ一致ノ 皇國ヲ維持スルニ遂ニ有ヘカズルノ  
理ニ任セリ夫海陸兵制ノ更張セザル一致ノ体ニ非ザルナリ  
財制會計ノ均一ナラザル一致ノ体ニ非ルナリ凡此數ノ者皆一

致ニ歸スル建國ノ大師ニシテ立法ノ綱維ナリ故海陸兵制ノ  
更張セサル國ノ守衛ヲ任スルニ足ラス庶務百事ノ振興セサ  
ル民ノ保護ヲ任スルニ足ラス財政會計ノ均一ナリ此ヲ更  
張セシメ此ヲ振興セシム用費ニ供スルニ足ラス今各藩ノ所見  
協同合和以テ一致ノ政体ヲ期シ帝ヲ奉ヒ國ヲ維持保  
トスルニアリ然レテ更ニ其体立ズシテ此三不足アリ豈能ク其  
實ヲ舉ルト言フヘシヤ夫全國ノ高三千万石ニ過ス而府縣  
ノ管轄スル所八百万石トス其二千二百万石各藩管轄タ  
リ此數ヲ算シテ全國ノ守衛保護會計ノ標準トシ按算  
セシハ兵制何由テ更張スルヲ得ニヤ百事何由テ振興ス  
ルヲ得ニヤ二者如此國權立スルハ何時カ獨立不羈ノ威柄  
ヲ備ヘ萬邦ト並立シテ對等ノ交際ヲ遂ルヲ得ニヤ夫政

不盡ヲ得ハルノ責ニ任シテ其實ヲ問ス各藩遂ニ此ハカラサ  
ノ理有テ其實ヲ舉ス各相顧望猶豫シテ大ニ有為ノ秋  
ヲ誤ラハ國權ノ確立スル又更ニ何時ヲ期セシヤ今ヤ内國維  
興張ノ運ニ際シ外國權利勢壓ノ文際ニ接ス鋭意經營  
皇暇ナカルヘキヲ顧望猶豫尚如此ハ後世ノ遺憾豈窮極  
アルヘケシヤ然レ則政府其實ヲ盡スルハカラス各藩其實ヲ舉  
ケサルハカラス何ヲカ其實ヲ舉ルト云フ各管轄ノ兵ヲ一致シテ  
兵部ニ屬スル此ナリ庶務百事ヲ一致シテ民部ニ屬スル此ナリ  
財政會計ヲ一致シテ大藏ニ屬スル此ナリ此其實ヲ舉ル所見  
シテ而其興張振興セシムル基礎財政ノ一致ニ在リ故曰  
政ヲ改メ弊事ヲ去リ無用不急ノ秩祿ヲ削リ曠土浮民十カ  
ラシム用ヲ節シ費ヲ省キ其會計ヲ公算シ政府ニ供セサルハカラ

ス政府又洵トシテ其當リ任ルヤ其財政固ヨリ國ヲ守リ民  
ヲ護スルノ公費ニシテ毫モ專擅スル能ハス公明正大ノ理ニ依  
自主ノ權人民ニ足り自衛ノ威ヲ國家ニ備ヘシム夫如此ニテ政  
体一致建國立法大綱領ヲ得テト云ヘシ國力合ニ國權立  
ト云ヘシナリ然ルニ海陸兵制未タ更張ニ至ラズ庶務百事未  
振興ニ至ラズ財政會計未ク均一ニ至ラズ僅ニ八百万石ノ租  
稅ヲ以テ全國稅ト一切ノ用度及ヒ兵制外務交際所費ニ供  
ス此前日ノ舊ト異ナリナクシテ其國其政府クハ所以抑又何  
カアルヤ此速ニ全國財政ノ公算ヲ定メ真ニ一致ノ体ヲ立テ  
國ノ權立テテ自主自衛ニ足ラシムルヲ衆議公定セサルハセズ

十月廿七日

此大隈奏議所議云亦不知其果然否矣

一 靜岡藩の

平岡丹治

古ノ者徳川家六代公より右勅多事年より方強孝師を  
欠失勵精在り多事年終功ニ七千石余を奉出此先表  
仕到り方々地甚く少此度方々より所免を以テ之を  
お又之道積年より多事より所免を以テ之を  
之道藩應に在り玉指を以テ之を  
古ノ者多事より所免を以テ之を  
格ニ之を以テ之を

静岡十月

静岡藩の

静岡藩の  
書面ノ類尤之を以テ之を

後藤板垣兩先達<sup>生</sup>建議

一人民平均の理ヲ主トシ士族文武ノ常職ヲ止メ同一人民中ノ族類ニ歸スル事

一官員兵隊ヲ立ツルハ官等官録ヲ以テ士族卒平民中ヨリ撰擢スヘキ事

一士族ノ録制ヲ變シ更ニ録券ヲ給シ家産ト視做スヘキ事

一士族ノ常職ヲ解キ別ニ兵隊常備ヲ立ヘシ故從來世録ノ何分一ヨリ兵給ニ充ヘキ事

一士族卒平民各其族類ヲ分ツノミ農工商人民ノ活業

歸ニ族株ニ関セサルヘキ  
一藩廳ヲ視テ一藩之民政司ト做シ國民一般ノ籍ノ法ヲ  
立ヘキ事

若ノ様ニ今般更ニシ藩政基礎改革被  
仰出候ニ付議案相立奉伺候尤天下一般御布告可  
相成儀ニ御座候得共御沙汰次第當藩ヨリ施行  
仕度奉候宜御犯奏奉仰候

庚午  
十月廿五日

高知藩

辨官御中

右十月廿五日指出候處同月廿九日板垣退久參朝

被仰付建白之趣御採用被仰付候旨其藩ヨリ  
早々施行スヘキ旨被仰付候事

人民平均議

一<sup>士族</sup>文武ノ常職ヲ止メ同一人民中ノ族類ニ歸スル事  
一官員兵隊ヲ立ツルハ官等官禄ヲ以テ士族卒平民中  
ヨリ擢スヘキ事

右按夫士ハ徳川氏武治ヲ以テ天下ヲ封建シ藩國各具  
士ヲ養ヒ君臣ヲ結ヒ護衛武職トシ級禄ヲ與テ以テ之  
ヲ世襲シ又其平民ト城セサル者トス今日朝政一新  
藩國共士民版藉ヲ朝ニ歸シ郡縣ノ体ト成リ萃族士



族ヲ分子從來ノ君臣ヲ止メ猶宇内各國開明ノ治ヲ  
參シ勢ヲテ旧習ノ固陋ヲ除キ進步日新ス然レ士  
族人民ノ類歸スト虽レ文武ノ常職ヲ帶<sup>官</sup>負ト成リ  
兵隊ト成ル亦多ク士族ノ限ル故平日士大夫ノ<sup>官</sup>專<sup>官</sup>ヲ  
文武學課ノ責メアツテ農工商ノ如キハ人民同一智識ヲ  
招クヘキ責ナシ是其開明諸國ノナキ所ニシテ人爵ヲ  
以テ天爵ヲ奪ノ甚キ者ト謂ヘシ今日ニ至テハ此陋習ヲ  
一洗シ士ノ文武常職<sup>止向人民ノ族類ノ定メハシ唯士族タル者如キハ其常職</sup>ノ慣安ニ徒爾坐食スルノ弊ヲク  
人民各其智識ヲ研究シ勉勵報國ノ志アルヘキハ天職<sup>流</sup>シ  
一士族祿制ヲ變シ更ニ祿券ヲ給シ家産ト視做スヘキ事

右按士族常職ヲ解ク別ニ兵<sup>士常</sup>備ヲ立ヘシ故ニ從來世祿  
何分ノ一ヲ削テ兵士ノ給ニ充ツ其何分ノ餘ヲ以テ定祿ト  
シ更ニ券ヲ與ヘテ之ヲ子孫ニ傳ヘ以家産トス祿券ヲ以  
テ家産トシ其券ヲ割キ賣買ヲ許スノ上ハ向後漸次ニ  
此祿券ヲ政府へ買上ケ消没セシメハ削祿何分ノ一兵ノ  
充ツルノ餘分ヲ積<sup>ニ</sup>買券ノ資トス自然官祿ノ外別ニ厚  
祿ヲ仰ク者無之士卒平民同般ニ田地山林等ノ恒産<sup>ニ</sup>得  
セシム目的トス其券ヲ割テ賣買スル亦許スヘシ唯士族概  
祖先ノ功祿世襲ニ依テ今日家産ノ基ヲ爲ス故從今  
何分ノ一ヲ削ル亦更ニ其高下加減ノ平均ヲ論スヘカラ

且士族ニシテ官ニ入ル官禄ヲ給スヘシ家産<sup>産</sup>ノ禄額ヲ  
視サルナリノ兵隊ニ入ル亦同シ

一 藩廳ヲ視テ一藩ノ民政司ト做シ國民一般ノ法ヲ立ツヘキ事  
右按士族卒ノ分界ヲ明證スル猶

朝廷ノ御沙汰ヲ得テ之ヲ定メ從來ノ民政司ヲ廢シ

郷正以下ハ等外ノ土司官トシ一藩廳中戸籍司ヲ置キ士

族卒平民<sup>非人</sup>種ヲ分ト虽モ各具戸口檢査ノ法ヲ以テ

一般ノ國民タルヲ示スヘシ職制表戸籍表ハ別ニ之ヲ載ス

一 板垣退介今般四民同一御趣意ニシテ三民ハ實ニ賤業也今日禽獸ニ近キ者  
ト云リヲ致スヤウニ相成候其禽獸ニ近キ如何トナレハ武士タル者アリシ故ニ三民ハ  
賤業ノミニテ世ニ渡リ人道ヲ不弁故ニ禽獸ニ近シ上古ハ四民ノ別ナシ支那ヨリ  
及ヒ四民ノ別テキ候テ故武士道ヲ廢シ人道ヲ興起セハ人才知識モ沃山出来万民  
挙テ必戰ノ用ヲナスヘキヲ万一必戰ノ節ハ萬國事ニ死シ候ヤウ可相成事會津  
佛國ヲ批劾スヘキ

三 曰士族均禄ニ至リテハ施行致シカタク如何トナレハ祖先父祖ノ功勞ニ依リ高禄ヲ世襲  
スルアリ又定禄アリテ世襲スルアリ功勞ヨリテ世襲セシ均禄セハ譬ハ農商ノ内ニモ  
父祖ノカセキヨリ田畑金銀等富饒ナルアリ又貧ナルアリ之ヲ如何セシ故ニ士モ禄ヲ  
家産ト見ナレ禄券ヲ与エ其家産ヲ以テ銘ニ欲スル所ヲ學習シ其才ヨリ官員常  
備隊ニ撰用ノ節ハ家産禄ノ上官禄ヲ与ヘ合併ス又士族貧ニ迫ル歎存意アリテ  
禄券ヲ管内ノ者ニ賣ル勝手次第平民ノ田畑ヲウリコウガ如シ禄券高ノ内切賣モ  
勝手其節ハ藩廳へ願出候ハ禄券ヲ望ノ如ク二枚ナリ三枚ナリ認メ可遣定メ尤  
士族ノ名目ハ尙置キ農商勝手ニ候ハ氏自ラ賤業ハテケサル一儀令町家ニ居リ商ヲ  
致ス氏コレハ裏口ヨリ出候ヤウノ事禄券ヲ官ニウルモ他人ニ賣ルモ随意ニテ禄券ヲ

他工渡侯節の家産禄ナキニハ則平民族相成賤業勝手ノイル来官員兵隊ノ者凡功積ル者ハ又家産禄ヲ与フ功大ナル子孫ニ及功小ナル終身等ノ差等アルキヲ英ナトシテハ功勞アル者ハ俸禄ヲ与フ譬ハ百俵ノ俸禄ナラハ其身没後妻ニ五十俵妻死後ハ子ハ廿五俵ト受領イタス則家産禄見ヘクハ從來家産ノ禄券ハ世襲ナリ

四曰常備ノ給禄ハ從來ノ禄ノ内ニ歩ノ一ヲトリ上ケ夫ヲ以テ扶持スル見込尤土州ニ於テハ是迄ノ削禄モ少分故右ニ歩ニテ充分兵食足候事ニ歩ノ一ハ藩地ニテモ未熟ナリ

五曰士族卒ノ別モ不入ナレハ人情ヨリ族称ハ付置候事士族ノ名ヲ廢サハ華族貴族ノ名モ不入事也

右ハ大目也細目ニ至リテハホソ御附紙濟不申廢刀ト卒ノ族称等ノヨシニ察ホセニ候事

一廢刀論ノ帶劔スルヲ萬民勝手ニ帶シ又廢スルニテ子細アルマシ元来或ハ一流侯故帶劔スルカニハ土民町人共法外ノ無礼等イタセハ止ナク抜刀スルニハ四民同ニナレハ則一牧ノ平民ニテ是迄ノ無礼答メモ及マシサスレハ腕劔

モ子細アルニシ

一卒族ノ稱廢セシレハ今又華族士族ト付カハ卒モ族名アリテ可然事如何ト同ハ卒ハ一代限りノ者故族称ナキ旨從來卒モ勢ニ依リ世襲スルモ然リト云

一前頭ノ如ク文武解放チ新ニ官名常備兵隊ヲ撰擧シ又藩ニ大学校管内ニ數十ノ小学校ヲ設ケ銘ノ念發致サセ小学校ヲ折ニ藩ヨリ点檢シ學生ノ修業ヨリ大学校へ入レ人ノ才能ヨリ分科主ニ勉勵ノ尤漢學ハ四書ニテ充分ニ有之ク巴ニ土州ニ西洋人五名雇ヒ候旨右大中小学校ノ費ニ充ツルニ銘ヨリ賦税ノ如ク福禾ノ内取建ルテサスレハ習ハヌカ損ト申者ニテ父兄タル者別テ子弟ニ勉勵致サセ候様相成ヘクサスレハ士族平民族モ互ニ勵ニ勉強可致

一當今ハ成行ニテハ各國ニ並立ヲカタルヘシ又必戰ノ節ハ會津ノ如ク暫時ニ敗レ字佛ニ至ツテハ帝王擒ニルハ國中悉皆兵ニ相成人種ノアラシ限リ報國ス會津ハ武士ハ必死ナレハ農ニ至ツテハ却テ我ノ用ニシ偶農民共城中へ柿ツタモノヲ送ルヲ我ニ賣買イタス位ノ數百年ノ恩沢ヲ受クモ農商ノ賤シキニ至テハ傍觀スルニサテムヘキアラサレテ土州ニ自鼻ノ付シ者ハ五十方ロアリ漸ク役ニ立ツ者ヲ精撰セハ三千ニ不過 皇國又然リ人口ノ多キハ各國ニサリ七千万ロモアルヘシナレハ兵ハ僅百万

ニ不過故ニ武士道ヲ廢シ人道ヲ起シハカナキ者ハモノヲノ道ト申フヲ止メハカナキ  
モノハ人タルノ道ト申ニイタラハ 皇國中奉テ軍役ニ必戰ノ節ハ必報國死ニ  
イタルヘント云

一 何レニ不遠シテ郡縣ニ相成ヘキト故右ノ如ク解放チテ今日真ノ郡縣ニ相  
成テ土州ニ於テニ藩確定致シ伺モ藩侯事故細目ノ附紙濟次第並艦ニテ  
引取直ニ施行致スヘク土藩ニテハ三年ニシテ見事ニテ侯半ト右ノ件ノ内如何ニ  
存セラレ候廉ハ御聞論被下及退分ニ藩確定ヲ帶ヒ出京ノ故詳ニ御各  
可申ト云

一 土州ハ頑固ノ國ニ津ノ川ト申極山分ヘ冬リテ見シニ郷士店屋共充分事足  
リト泰然ト安シ知事ニ至リテモ亦然リ毎々客堂公ヘモ活眼ヲ開カ大申々  
土州ノ知事ハ小キト相笑ヒ侯テニテ人間ハ慾深クナクテハナラヌト輔公ノ慾深  
キニ至テハ一片石牌千歳ニ残り高モ亦然リ慾深クハ英ノ 三モ至ルヘシ 皇國ハ  
小國ナレド物産ノ多キハ各國ニ勝レリ故ニ致シタカニテ富國ナリ強兵ニナルヘキト云  
一 皇國ノ僉約ハ西洋ノ僉約ト異也西洋ハ贅物ヲ去ルヲ儉トス譬ハ我床ナト如  
キモノ 皇國ノ僉約ハ夕トハ三盃ノ飯ヲ二盃喰テ濟スヲ僉トス土州ニ於テハ從來

質素僉約解放チ遊女屋等モ取立優々致侯ト今迄ハ藩ノ權ヲ以テ人民ヲメリ  
付置侯ヘハ斯ノ時勢ニナリテハ究屈ナル所ハイヤト銘ニ欲スル地エ移ラハ土州ハ本ノ  
流罪國トナルヘキ故ニ制度解放チ侯又金銀ハ見テ樂ムヘキニアラヌ嘗テ味ヲウキ  
ニ派ス衣食住ニ是スニ銘ニ欲スル所ニ後ニ商法等開キ侯ハハ万民ノ生活ノミナス  
皇國ノ為ニナルヘキト云

一 西條藩某云我藩ノ如キモ祿券ヲ与ヘ新ニ官員兵隊ヲ取立侯ト出来可申  
我是也余程削祿モ致シ居ンナリ板垣答曰己ニ土族第一多キ上秋藩知事云  
ヘ右ノ条ニ過日相咄侯所目的モ立侯然早速ニ施行可致旨申サレ侯ニシテ他ノ藩  
ハ猶更也尤祿券ヲ藩ヘ買入レサルハ國債ニ均ク侯ヘハ管内富ニ侯ハハ公解  
モ又家産ホノ夫ニ雜稅モ多分ニ入リ可申事英ノ國債世界第一七億万トル占  
ナレド國內ノ人民ハ皆富饒政府富侯氏國內貧レハ如何ニ難カルヘシ

一 長州モ右件ニ相噓侯所可施旨宇和寫老公過日坂府ニテ同藩ノ者エ士ト卒  
トノ取分チ難波ノ御咄故高知ハカクト荒増申侯所感心セラレ猶其後福富  
ナルモノ委曲申入侯所感心セラレ侯多分御施行可相成御附紙濟次第廻シ  
吳侯様御頼ニ候

一 海軍費ヲ陸ヨリ出シ候ハ分リ難キテ陸軍ハ陸ヨリ生シ海軍ハ海ヨリ生キテ  
 譬ハ字ニモセヨ英ニモセヨ航海イタス海上ハ我者也 皇國ハ幸ニ人民多キニ  
 航海盛ニイタサハ何レハ航スルナリ皆我随意ナリ其税ヲトリテ海軍費ニ充  
 ツキテ尤莖気軍艦ハ今テノ士族ノ如シ  
 一 福富某酒後ノ噺ニ名有テ実ナキヲ數多アリヲニコヨリ子カデケ而後名  
 ナ付候様ニ致シ度者ト相笑ヒ候事  
 右ノ件ニ公平至当ノ出括一ニ筆紙ニ尽シカタク大畧ヲ記スルニ來ル十八九日  
 比ニ引取候事ト存候事  
 一 阿州松岡某ヨリ伝承ヲロシヤト漢<sup>漢</sup>スリヤトトルコノ地ヲ爭ヒ已ニ兵端ヲ開カシ  
 ト欲スル由西條 某ノ噺ニ右事件ニハ 皇國モ關係ノアリシヨシ  
 一 右松岡ノ吐ニ東京大坂甲府石巻新潟三原多度津長崎右ハ府ノ御議  
 決アリシヨシ

一 長尾藩職制

藩主事

左系事ニテ

本多大老事

堀田大老事

少系事ニテ

幸富少老事

龜田少老事

石井少老事

吉原少老事

奥村少老事

大層少老

多計所  
 多後所  
 耳所

三才圖會

刑名圖

三才圖

三才圖

平聲 卷

福并圖之

作書圖之

法書圖之

法書圖之

禮書圖之

仙書圖之

山為 卷

少屬十三頁

刑名圖

德厚 卷

禮書圖之

刑名圖

三才圖

法書圖之

仙書圖之

史生十二页

一 雁存十页

尚有一册子... 亦人... 亦人...

ノ六千三人

軍勢... 學校...

長... 少... 長...

一 軍事... 兵...

現

現有... 方四千石... 一... 一...

一 今屋...

昔... 甲行... 目...

廿... 元... 十...

三... 後... 上...

三... 年... 後...

三... 年... 後...

三... 年... 後...

三... 年... 後...

三... 年... 後...

一

一 日向...

王... 維... 後... 府... 藩... 孫... 三... 治... 不... 政... 序... 政... 代... 日... 仁... 皇... 親...

備在... 備在... 備在... 備在... 備在...  
 備在... 備在... 備在... 備在... 備在...  
 備在... 備在... 備在... 備在... 備在...  
 備在... 備在... 備在... 備在... 備在...  
 備在... 備在... 備在... 備在... 備在...

庚午  
 閏四月九日

方... 飲... 佐... 正...

備在...

備在... 備在... 備在... 備在... 備在...

一 備在...

一 備在...

一 古...

現石二百石	二百五十俵	知事
日 百石	二百五十俵	大卷事
同 七十四石	日百廿五俵	権大卷事
日 四十八石	日百二十俵	権大卷事
日 二十八石	日七十俵	督学 大隊長 大属
日 二十四石八斗	日六十俵	砲大隊長 關越隊隊長 郡卒長
日 十八石四斗	日四十俵	濟寧隊隊長 教授
日 十二石	日三十俵	学董 副教 練兵 教授

右... 割... 給...

大卷事 不見



一士族禄割

現石四十石

此俵百俵

日 二十五石

日六十二俵二年

日 二十石

日五十俵

日 十五石

日三十七俵二年

日 十二石

日三俵

日 九石

日二十二俵二年

一卒禄割三階

現石八石

此俵二十俵

日 六石

日十五俵

日 四石八斗

日十二俵

一非役士族ハ廳掌以下ハ列位事  
但并一等禄ノ者ハ雖モ解官並家持ノ高ハ第ハ等ノ

下ニ就ク卒也然

一金給ハ高相場多クハ現石引直給禄制限アリ

一勤切犯案ノ事件ハ石給禄昇降アリ事

但家持ハ印着子或幼少多クハ禄ヲ減ス然レ父

子ノ行状ニ依テ減禄ノ旨モ可ク事

右ニ通リ印着候以上

庚午 閏十月

報告

中

姪路齋

覺

一 士族ノ内同士族へ奉公致度侯儀不苦哉之事

即附紙

士族ノ内士族へ相雇侯不苦侯事

一 士族ノ内其族ヲ脱シ度願出者有之侯節ハ平民ノ藉へ指入侯テ可然哉之事

曰

伺之通

一 士族ニテ卒平民ヨリ養子致侯儀不苦哉ノ事

曰

伺之通

一 学校之入費如何相心得可申哉之事

曰

公解費ヨリ可相并事

一 藩地城郭之制其存可申哉又者城ヲ廢シ郭市郷ノ區域互相立置可申哉之事

曰

其存存置不苦侯事

一 士族常職ヲ止メ官負兵隊士族ニ限り不申上ハ知事家之家令家扶家從ホモ藩中士族ニ不限相對ヲ以テ召使侯儀ニ格別制限ハ無之ト

相心得可申致之事

日伺之通

右之廉之宜及内評议之上急之内差因之作付及奉伺候以上

庚午

十月八日

高知藩

翰官内中

重海藩

方今宇内紛擾其所以鄰如印國  
治亂多故我

邦國城スルコト最切事也  
戰事多其性自ふる各魯西去耳  
既立弱ヲ聞聞有之獨ノ歐州ニ治亂

ニ関カルノミナラス  
其彼ヲ知ルニ最モ今ノ急務也

今般先々大ニ爲多政事ニ應テ要也  
千人負テ石宛ラ送テ悔テ祝祭云々

皆



田一併に成之由請ふ事と極置ぬ事と據りて在り申上之由  
有分三原請書向ふ事

但し之由請ふ事地味判しり事と後遺書之由請ふ事と  
改有る事と申上之由

一 代官之事件元月迄に請ふ事と後遺書之由請ふ事と申上  
押寄被拂ひ申上事と申上之由

右事元月迄に請ふ事と後遺書之由請ふ事と申上  
有分三原請書向ふ事と申上之由

一 田一併に成之由請ふ事と極置ぬ事と據りて在り申上之由

申上之由  
并置申上

下被置

申上  
申上之由

一 制服の付

今般能事手格の制服は定に 仰出の事お使な系

其手印

一 藩書法お出系者 旅中へは得ては元日天長節  
系印の事お用ふは

小符紙 番法に系旅中へは事

一 書信に書し 仰出何れは旅中へは

其書に書し 制する事

一 書信に書し 仰出何れは旅中へは

其書に書し 制する事

一 帽相用は事 右者候は

其書に書し 制する事

一 使部 書信に書し 仰出何れは旅中へは

口何(道)

一士族古俗を以て子弟を以て其位を授け子弟の位は

口何(道)

一家全家扶かす何(道)其用之也

其子弟を以て其位を授け一般に制(道)也

一階級自當時貴族に降る者(道)卒(道)也

口何(道)

一當所雇之家母(道)何(道)其用之也

口何(道)

一藩号(道)其用之也

口何(道)

一其位(道)其用之也

口何(道)

一兵士(道)其用之也

口何(道)

一平人(道)其用之也

口何(道)

有(道)其用之也

仙其(道)

仙其(道)

一何(道)

其用之也





一者為五穀雜稅一課之設分額之詳定其數以口戶為其  
多寡其數必令極其不而戶口之數必以是為其由而為  
之形之其數必令極其不而戶口之數必以是為其由而為  
部者為其以之其數必令極其不而戶口之數必以是為其由而為  
年之不抑其地之布而為其數必令極其不而戶口之數必以是為其由而為  
估之一課之數必令極其不而戶口之數必以是為其由而為  
陽地之課稅之數必令極其不而戶口之數必以是為其由而為  
又其一一四五年之其數必令極其不而戶口之數必以是為其由而為  
之估之其數必令極其不而戶口之數必以是為其由而為  
估之其數必令極其不而戶口之數必以是為其由而為  
其數必令極其不而戶口之數必以是為其由而為

一四第一件中津藩邸

本月中旬頃急報有云在田尻村清原  
中屯屯守隊員一徒十七人押入全屯各古山須有及所書  
証局等古山須有及所書証局等古山須有及所書証局等  
古山須有及所書証局等古山須有及所書証局等古山須有及所書証局等  
古山須有及所書証局等古山須有及所書証局等古山須有及所書証局等

中津藩邸

中津藩邸

引紙

浮原信忠傳事一件古山須有及所書証局等

一昔三日月傳表森防上十名方三浮原信忠傳事一件古山須有及所書証局等  
由於古山須有及所書証局等古山須有及所書証局等古山須有及所書証局等  
古山須有及所書証局等古山須有及所書証局等古山須有及所書証局等

一浪人賊首古山須有及所書証局等古山須有及所書証局等古山須有及所書証局等

余之痛動之而化集於此也... 押出... 所於... 不中...

一 去月下旬以... 德長沼浦... 上陸...

元... 西村... 楠本... 回...

一 當... 德長... 押出... 德長...

一 浮... 德長... 押出... 德長...

一 去九月... 德長... 押出... 德長...

君... 德長... 押出... 德長...

一 高... 德長... 押出... 德長...

中津藩

一 去... 德長... 押出... 德長...

縣内... 德長... 押出... 德長... 押出... 德長...



当来伏見也... 白根部... 合多... 出... 大... 取... 藩... 度... 也

日田縣... 書片

百騎長

豊津藩

板倉源一造

変名 仁科三九

宇野源一

変名 源若實

東上... 日田

豊津名

久留米

東肥

此一計... 和歌浦... 奉迎... 積

東肥徒魁

水川常

大津

今井

津

白形

蓮

小石原

長谷

津江田

塔婆石角

山田寺中ハ

白川也葛

蘇崎八階社人書名簿本

古の形記を今手書高村寺にありてありて吹石法

一英公使より書翰

以手紙致啓上候然者去廿三日夜八字頃我國人が入りしに  
 之兩人東京府神田鍋町通行之御暗殺スルノ趣書ヲ以  
 テ右方人ニ切付候一件ニ付貴國廿四附之貴員葡各國同列  
 共ニ被遣相成一同勘考候所各國公使ニ於テモ右之次第  
 承リ深ク致痛心候全体  
 天皇陛下政權御握掌被遊候上者外國人對シ糾妨儀  
 藉ノ儀ニ急度可相止ト存居候所此度ノ一件差違再應右  
 様ノ悪行者之候段甚以遺憾ニ存居候元来右英人兩人  
 リ糾妨ヲ醸シ候儀無之平穩ニ道路通行致シ居候処日本  
 人一亦人闇夜ニ乘シ平常之如ク帯佩罷立ハ刀ヲ以テ後  
 呂リ切付候ノ有之候一躰貴國帯刀人中ニ人命ヲ害  
 候ヲ厭ハス其帯刀ヲ惡業ニ用ヒ候心底ノ者不少存

候右様暴悪ノ者ニ平日帯カツ許シ置其取締嚴重  
ニ無之ヨリ斯様ノ所業出来致候夫佩刀ハ記功表  
尊ノ證ニテ其配刀ヲ汚サレ者不巳可許客ニ所酷  
斷シテ武器ヲ不佩者ヲ威劫シ或ハ狗犬ヲ切り或ハ  
其他種ノ乱妨ノ所業有之候ヲ東京市中ニ於テ度見  
受レ候是等ハ佩刀ヲ不可許客ニ有之候所猥リニ御許  
客ニ相成候テハ貴國政府豈其責可逃哉右様ノ大事  
件ニ付テハ其刑罰ニ速ナルヲ尊候得共ダラスリノグニ兩  
人ニ切付候日本人捕縛方ノ儀ハ貴國政府ニ於テ予配ニ  
相成早速実效御顯ニ相成候事ト存候雖然右罪人  
ヲ罰シ候而已ニテハ外國人防禦ニ於テ未不足ニ有之候  
様各國公使相考候間佩刀ノ亂暴人此上尚又嚴密ニ  
取締被相立候者貴國政府之職掌ト存候依之向後

士卒族ノ内士族而已帯アラ許シ士卒族ニ至テハ公用ノ外  
帯刀ヲ禁シ美得ハ右暴行ヲ防禦スルノ一端ニ相成候  
事ト存候間右様ノ御所置有之候様急度申入候尤  
右ニ通御所置ニ相成候煩勞ヲ厭ヒお捨置シ貴國在  
留各國人ニ危難ヲ為懸候テ却テ貴國ノ危難ニ相成  
且又貴國ノ恥辱ニ相成候段御熟考有之度存候  
右貴若方ニ可得御意如此所座候以上

庚午十一月三十日

美國全權公使

サアハルリーパークス

澤 外務卿  
寺島 外務太輔  
閣下

一 名古屋藩の中幕書

一 即今印政治り新多きし事跡を記し知政ヲ研キ精心ヲ  
活費ニテ時世ニ渡ルハカク久兵事尤然リ前記ニ所載多ク  
其後スルニ專五十三八ノ會談講和ノ前後大政官日徳海  
外各藩及ヒ藩内ノ新聞ヲ集メ各見聞ニ相傳ヒ怡和ニ  
知テリ新ノ情態ヲ并知スルニ

一 司倉官以上ノ勅諭其地首志ノ輩モ出席ノ名簿ヲ守テ隊  
席ニ出スルニ

一 藩ニ所託新聞アラスハ流末ノ事件ト雖會談席ニ出スル  
其新聞原事トスル活板ニシテ其始末ヲ書記ニテ各藩ノ名望  
ヲ傳フ人ニ

慶年 十一月

名古屋藩廳

三三三 幸水或陣

出仕

丹波守 田中守 如名

三三三

中根 上代

中川 五三

久野 五三

志川 保左

少 中

三三三

千守 五三

生野 五三

中村 五三

大津 五三

信長 五三

中西 五三

志山 五三

信了 五三

土屋 五三

蒲 五三

三三三

松井 五三

小室 五三

久野 五三

白井 五三

丹波 五三

多田 五三

及田 五三

村田 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

中井 五三

一三美藩刑律約

美濃堅張上書如左

三美藩

美濃國田村郡古道村新田德次外二人所任置書

午二月十八日入牢

日

美濃國田村郡古道村新田

百屋

德次

榮

右德次係假借田村郡古道村新田馬洗戶源氏後家宅  
正月廿一被押入源作後家及救害上金其外盜取不  
局打首獄門可有修常助係後家及救害後地  
介係之信元之借用之金三戸嚴城金子其外盜取不局  
永牢下中

一德次係強盜之上海元後家救害

一常助係盜之一度

一德次常助盜金二万盗取以示代金後五万其外盜取





一西端藩内

判任と名拜等々候御願下り候事  
在来該判任者も以書付御事  
うは海等々

但東京詰候事  
上は海等々

在来判任  
日連署  
長古

一知事  
日  
在来

一庚午冬畧項

薩下等々  
世の中  
崎  
右  
一目安箱

任向合

御のり  
り  
就  
御  
の  
御

富平の山に棲むる人々三河の地を  
治るる人の中より其の水川に海  
程舟の正事とて之を治るるは  
甘らうとて甘く居るは其の事  
西野の家統と居るは其の事  
少くあつて治るるは其の事  
伊予の事なり其の事  
ちんちん一月氏ぬとて其の事  
大徳とて之を治るるは其の事

律一能平年譜白

古改行一新公道の万事は及正牙一門地之度一人材  
は中々肩より其の事とて其の事とて其の事  
之を治るるは其の事  
伊予の事なり其の事  
ちんちん一月氏ぬとて其の事  
大徳とて之を治るるは其の事  
一犯科士遠忌却る命係り者とて其の事  
士族とて其の事

降一神等事より空詠死罪共約改り妙か

但此死罪位重き不拘 輕或重印上重決行係力備

其等事

何道

一 素戔尊系同科、重き方は

何道

但科、雖減罪之然、不係指探之重案、酌減重案

其士探之重案

但書、但書 中領者、新律、依之、所重之故事

一 犯科、一犯科 重案、重案 重き名案、重案 配て病辭、配て病辭 此、此 自請禁錮

其等事、其等事 自請者、自請者 不拘、不拘 紀、紀 重き方、重き方 依之、依之 酌減重案

何道

紀、紀 重き方、重き方 依之、依之 酌減重案

一人命、一人命 重案、重案 重き名案、重案 配て病辭、配て病辭 此、此 自請禁錮

何道

但此理、但此理 重案、重案 重き名案、重案 配て病辭、配て病辭 此、此 自請禁錮

何道

何道

其等事、其等事 自請者、自請者 不拘、不拘 紀、紀 重き方、重き方 依之、依之 酌減重案

知不足齋主人

庚午十一月

所藏詩書

福澤諭吉先生  
中津留別之書

人ハ万物ノ靈ナリト云フ只耳目鼻口手足ヲ  
具ヘ言語眠食スルヲ云フニ非ス其実ハ天道  
ニ從テ位ヲ脩メ人ノ人タル知識聞見ヲ博ク  
シ物ニ接シ人ニ交リ我一身ノ獨立ヲ謀リ我  
一家ノ活計ヲ立テ、マソ始テ万物ヲ靈ト云  
フ可キナリ、古來支那日本人ノアマリ心附サ  
ルナレト云フ人間ノ天性ニ自主自由ト云フ道  
アリト云フ自由ト云フハ我侏ノ様ニ聞ユ  
レト云フ然ラズ自由トハ他人ノ妨ヲ爲サス  
メ我心ノ終ニ事ヲ行フノ義ナリ父子君臣夫  
婦明友互ニ相妨ゲスシテ各其持前ノ心ヲ自

由自在ニ行ハシメ我心ヲ以テ他人ノ身体ヲ  
制セズ各其一身ノ独立ヲ為サシムルトキハ  
人ノ天然持前ノ性ハ正シキ故惡キ方ハ趨  
カサル者也若シ心得違ノ者アリテ自由ノ分  
限ヲ失ヒ他人ヲ害シテ自ヲ利セントスル者  
アレハ則人間ノ仲間ニ害アル人ナル故天ノ  
罪スル所人ノ許サ、ル所貴賤長幼ノ區別ナ  
クコレヲ輕蔑シテ可也コレヲ罰シテ可ナリ  
右ノ如ク人ノ自由独立ハ大切ナルモノニテ  
此義ヲ誤ル氏ハ徳モ脩ム可ラス智モ闕ヘカ  
ラス家モ治コラス國モ立タス天下ノ独立モ

望ム可ラス一身独立シテ一家独立シ一家独  
立シテ一國獨立シ一國獨立シテ天下モ獨立  
スヘシ士農工商互ニ相其自由獨立ヲ妨クヘ  
カラス  
人倫ノ大本ハ夫婦ナリ夫婦アリテ後ニ親子  
アリ兄弟姉妹アリ天ノ人ヲ生スルヤ創闢ノ  
始ノ一男一女ナルヘシ数千万年ノ久シキヲ  
經ルモ其割合ハ同シカラサルヲ得ズ又男ト  
云ヒ女ト云ヒ等シク天地間ノ一人ニテ輕重  
ノ別アルヘキ理ナシ古今支那日本ノ風俗ヲ  
見ルニ一男ニテ數多ノ婦人ヲ妻妾ニシ婦人

ヲ取扱フ下婢フ如ク又罪人ノ如クシテ嘗  
テコレヲ耻ル色ナシ淺間シキナラズヤ一  
家ノ主人其妻ヲ輕蔑スレハ其子コレヲ敬テ  
母ヲ侮リ其教ヲ重シセス母ノ教ヲ重シセサ  
レハ母ハアレヒナキガ如シ孤子ニ異ナラサ  
ルナリ況ヤ男子ハ外ヲ勤テ家ニ在ルヲ稀ナ  
レハ誰カ其子ヲ教育スル者アラシ哀ト云ヲ  
モ尚アマリアリ論語ニ夫婦別アリト記セリ  
別アリト云フハ分々隔アリト云フニアル  
マシ夫婦ノ間ハ情コソアル可キナリ他人ヲ  
シク分々隔アリテハ逆モ家ハ治マリ難シ左

レハ別トハ區別ノ義ニテ此男女ハ此夫婦彼  
男女ハ彼夫婦ト二人ツ、區別正シク定ルト  
云フ義ナルヘシ然ルニ今多勢ノ妾ヲ養ヒ本  
妻ニモ子アリ妾ニモ子アルトキハ兄弟同士  
父ハ一人ニテ母ハ異ナリ夫婦區別有トハ云  
ハレマシ男子ニ二女ヲ娶ルノ權アラハ婦人  
ニモ二夫ヲ私スルノ理ナカルベカラズ試ニ  
問フ天下ノ男子其細君別ニ一夫ヲ愛シ一婦  
ニ夫家ニ居ルナラハ主人ヨク之ヲ甘シシ  
テ其婦人ニ事フルカ又左傳ニ其室ヲ易ルト  
云フナアリコレハ暫時細君ヲ交易スルナリ



孔子様ハ世ノ風俗ノ衰ルヲ患テ春秋ヲ著  
シ夷狄タノ中華タノトヤカマシク人ヲ褒タ  
リ謗タリセラレシナレト細君ヲ交易ハサマ  
テ心配ニモナラサリシヤソシラ又顔ニテ之  
ヲ答メス我、共ノ考ニハ些シ不行届ノ様ニ  
思ハル、ナリサレハ論語ノ夫婦別アルモ外  
ニ解シ様ガアル文句カ漢儒先生達ノ記モア  
ルヘシ親ニ孝行ハ當然ノコトナリ唯一心ニ  
我親ト思ヒ余念ナリ孝行ヲ尽スヘシ三年父  
母ノ懐ヲ免レス故ニ三年ノ衰ヲ勤ルナト勤  
定スクノ差別ハアマツ薄情ニハアラズヤ

世間ニテ子ノ孝ナラサルヲ咎テ父母ノ慈ナ  
ラサルヲ罪スル者稀ナリ人ノ父母タル者其  
子ニ對シテ我生タル子ト唱ヘ手モテ造サ金  
モテ買ヒシ道具十トノ如ク思テハ大ナル心  
得違ナリ天ヨリ人ニ授カリタル賜ナレハ之  
ヲ大切ニ思ハサル可ヲス子生レハ父母カヲ  
合セテ之ヲ教育シ年齒十歳余マデハ親ノ手  
許ニ置キ兩親ノ威光ト慈愛トニテヨキ方ニ  
導キ既ニ學問ノ下地出来レハ學校ニ入レテ  
師匠ノ教ヲ受シ一人前ノ人間ニ仕立ル  
父母ノ役目ナリ天ニ對シテノ奉公ナリ子ノ

年齢二十一二歳ニモ及フトキハユレヲ成人  
ノ齡ト名付ケ各一人ノ下簡出来ルモノ十六  
父母ハ之ヲ棄テ、顧ミズ獨立ノ活計ヲ營ミ  
シノ其好ム所ニ行キ其欲スル事ヲ為サシメ  
テ可ナリ但親子ノ道ハ生涯変ルヘキニ非サ  
レハ子ハ孝行ヲ尽シ親ハ慈愛ヲ失フヘカラ  
ズ前ニ云ヘル棄テ、顧ミズトハ父子ノ問柄  
ニテモ其獨立身由ヲ妨ケサルノ趣意ノ三西  
洋書ノ内ニ子生レテ既ニ成人ニ及フノ後ハ  
父母ナル者ハ子ニ忠告スヘクシテ命令スヘ  
カラストアリ 萬古不易ノ金言思ハサル可ス

措又子ヲ教ルノ道ハ學問ヲ習ハ勿論ナレモ  
習マヨリ慣ルノ教大ナル者ナレハ父母ノ  
行狀正シカラサル可ラス口ニ正理ヲ唱ルモ  
身ノ行ヒ鄙劣ナレハ其子ハ父母ノ言語ヲ教  
トセズ其行狀ヲ見慣ラモノナリ况ヤ父母  
ノ言行共ニ正理ニ度ルモノヲヤ如何ゾ其子  
ノ人タルヲ望ム可キ孤子ヨリモ尚不幸ト云  
フヘシ或ハ父母ノ性質正直ニシテ子ヲ愛ス  
ルヲ知レモ事柄ノ方向ヲ辨セズ一筋ニ我欲  
スル所ノ道ニ入ラシメントスル者アリコハ  
罪ナキニ似タレモ其子ヲ愛スルヲ知テ

子ヲ愛スル所以ノ道ヲ知ラサレ者ト云ヘシ  
結句其子ヲミテ無智無徳ノ不幸ニ陷テシメ  
天理人道ニ背ク罪人ナリ人ノ父母トモテ其  
子ノ病身ナルヲ患サレ者ナシ心ニ人ニ若サ  
ルハ身体ノ不具ナルヨリモ劣ルモノナルニ  
獨リ其身体ノ病ヲ患テ心ノ病ヲ患サレハ何  
ソヤ婦人ノ仁ト云フヘキ歎或ハ畜類ノ愛ト  
名クルモ可ナリ  
人ノ心ノ同シカテサレ其面ノ異ナルガ如ク  
世ノ閑ルニ隨ヒ不善ノ輩モ隨テ増ニ平民一  
人ヲハノ力ニテハ其身ヲ安クシ其身代ヲ護

ルニ定テス是ニ於テ一國衆人ノ名代ナル者  
ヲ設ケ一般ノ便不便ヲ謀テ政律ヲ立テ勸善  
懲惡ノ位始テ世ニ行ハレ此名代ヲ名ケテ政  
府ト云フ其首長ヲ國君ト云フ附屬ノ人ヲ官  
吏ト云フ國ノ安全ヲ保テ他ノ輕侮ヲ防ク為  
ニハ欠クヘカラサル者ナリ凡世ノ中ニ仕事  
ノ種類多シト云フ此國ノ政事ヲ取扱フホト難  
キ者ハナシ骨折ル者ハ其報ヲ取ルヘキ天ノ  
道ナレハ仕事ノ難キホト報モ大ナル筈ナリ  
故ニ政府ノ下ニ居テ政事ノ恩沢ヲ蒙ル者ハ  
國君官吏ノ給料多キ迎之ヲ羨ム可テ大政府

ノ法正ニケレハ官吏ノ給金ハ安キ者ナリ  
二之ヲ羨マサルノミナラス又從テ其人ヲ尊  
敬セサルヘカラス但ニ国君官吏タル者モ自  
ラ勞ニテ自ラ食フノ大義ヲ失ハス其所勞ノ  
力ト其所得ノ給料ト輕重如何ヲ考ヘサルヘ  
カラス是即チ君臣ノ義ト云フ身  
右者人間ノ交ノ大畧ナリ其詳ナルハ二三枚  
ノ紙ニ尽スヘカラス必ス書ヲ読サルヘカラ  
ス書ヲ讀ムトハ独リ日本ノ書ノミナラス支  
那ノ書モ讀ミ天竺ノ昏モ讀ミ西洋諸國ノ昏  
モ讀マサルヘカラス頃口世間ニ皇學漢學

洋學ナト云ヒ自家ノ學流ヲ立テ互ニ相誹謗  
スルヨシ以ノ外ノ事ナリ學問トハ唯絨ニ記  
シタル字ノ讀ムトテアマリ六ヶ鋪トニア  
ラズ學流得失ノ論ハ先ツ字ヲ知リテ後ノ沙  
汰ナレハ預メ空論ニ時日ヲ費スハ益ナキナ  
ナリ人間ノ智惠ノ以テ日本支那英佛等僅ニ  
三ヶ國ノ語ヲ學ブニ何程ノ骨折アルヤ鄙怯  
ヲニクモ其字ヲ知ラスニテ却テ巴力知ラサル  
學問ノコトヲ誹謗スルハ男子タル者ノ耻ツ  
ヘキトニアラスヤ學問ヲスルニ先ツ學流  
ノ得失ヨリモ我本國ノ利害ヲ考ヘサルヘカ

ラス方今我國ニ外國ノ交易始マリ外國人ノ  
内或ハ不正ノ輩アリテ我國ヲ貪ニシ我國民  
ヲ愚ニシ自己カ利ヲ營コトスル者多ク在ル  
我日本人ノ皇學漢學ナト唱ヘ古風ヲ慕テ新  
法ヲ悦ハス世界ノ人情世體ニ通セズメ貪愚  
ニ陥ルコノ外國人ノ得意ナラスヤ彼ノ策中  
ニ籠絡セラル者ト云フヘシ是時ニ當テ外  
人ノ憚ルモノハ獨リ西洋ノ學ノ博ク万国  
ノ書ヲ讀テ世界ノ事狀ニ通シ世界ノ公法ヲ  
以テ世界ノ公事ヲ談シ内ニハ智徳ヲ脩テ人  
々ノ獨立自由ヲ逞シ外ニハ公法ヲ守テ一國

ノ獨立ヲ耀シ始テ真ノ大日本國ナラスヤ是  
即チ我輩ノ着眼皇漢洋ニ學ノ得矢ヲ問ハス  
獨リ洋學ノ急務ナルヲ至<sup>主</sup>張スル所以ナリ願  
クハ我旧里中津ノ士民モ今ヨリ活眼ヲ開テ  
先ツ洋學ニ從事シ自ラ勞シテ自ラ食ヒ人ノ  
自由ヲ妨スシテ我自由ヲ達シ脩徳開知鄙  
吝ノ心ヲ却掃シ家内安全天下富強ノ趣意ヲ  
了解セラルヘシ人誰カ古郷ヲ思ハサラン誰  
カ曰人ノ幸福ヲ祈サル者アラン茲足ノ期近  
ニ在リ勿々筆ヲ執テ西洋書中ノ大意ヲ記シ  
他日諸君ノ考案ニ遺スノ云

明治三年庚午十一月二十七夜中津苗  
主居町ノ旧宅敷窓ノ下ニ記ス

敗ノ訛也

一十二月十三日寫

岩倉公去月朔日申上京丸太町川端角ノ九條公ノ別館  
中滞在表向ノ官員始面謁一切而所リ由候工氏近  
歳ノ藩士并知事公杯モ申出否为申尋問来往既昨日  
淀藩知事公申善信由是聞者ヨリ傳聞

極密内ノ内

或人岩倉公家来ノ一語ヲ聞クニ

公ニ是迄ニ藩ノ意ニ随ヒ 王政復古ヲ興起スト雖

郡縣ノ体ニ相成候テヨリ甚失策多ク申モ郡縣ノ貫  
徹ノ見込無ク去述今更封建ノ御布令替ニモ難相成  
此姿ニテハ人民塗炭ニ苦シムヲ見ルニ忍ヒス且薩長疲弊  
ヲトテハ人數引纏歸國ノ願出全ク苛政ヨリ起リシトニ  
可有之諸士建言モ數多有之ト雖上ハ通スルハ稀ニテ

時日後ニテ家来ヨリ指出見ルヲアリ右等ノ行違ヨリ  
横山四太郎ノ如キ事情出来申モ公家ニテ天下ノ政  
務ヲ掌ルヲ思ヒ寄ラスト着眼ニ此上ハ人民ヲ苦シメ  
シヨリハ辭職如元小岩倉ニ隱遁セント最早一變モ  
遠カラストノ御内意ノ由

一英人暗殺心當リ者鹿見島藩ヨリ刑部省、指出相成假由

一十二月十二日刑部省エ九條彈正殿澤外務卿及徳大寺殿彈  
正少卿外務大少輔以下官員御出席有之候由大隈參議  
モ病氣ヲ押テ出席ト申テ也

右暗殺一条藩藩人佐土原藩二人合三人由 内文伏罪薩人  
未服罪セスト云

一雲井龍雄口書相成候風聞近日斬首セラレハト云連累  
四十名程内二十名程牢死セシ由

一金澤藩上表

臣慶寧頓首再拜謹而案スルニ方今明曆上ニ在リ  
輔翼人ヲ得百度維新乾綱更張此機ニ業シ規模  
弘開萬世不拔帝宏謨ヲモ可被建就而者其施設  
スル所固ヨリ緩急前後モ可有之候得共先内外  
之所區分ヲ被立候儀是當今亦一々急務ト奉存  
蓋之天下萬機皆 御親裁ニ出候得共内外御  
區分ノ相立々サル即是古来因襲ニ安ニテ尤其  
特ニ至理有之者ヨリ得共形勢一變古今且ラ殊ニスレ  
ハ今日ニ至而夫反テ其力為ニ一種ノ弊害ヲモ可醸假  
得ハ何卒今般 宸斷ヲ以テ 皇居外更ニ善地ヲ  
相ニ新ニ太政官ヲ所造建育ニ 皇帝陛下ノ御日  
幸臨被為在朝野ヲシテ徧々其朝憲之所出民心

之所向必此在而彼不在而シテ 陛下之萬機之御勤  
帝被為在の亦如斯公明較著ナルヲ知ラシムル則國  
國人心自定ニル所アワテ而シテ德教ノ行ル必今日ニ信  
スル者アラシ如斯ニシテ順次市手ヲ被為下候ハ次  
ニ國勢隆盛 皇威遠被場ニ可立至ト奉存ハ  
依之臣其地勢ヲ考ルニ海運之便利土地ノ廣闊東京ニ  
勝ル慶ナシ且今日ニ當テ一步ヲ退モ國勢ノ隆替ニ  
關係仕ハ者必於此地御撰擇有之度就而華東  
京城本丸頃日廢址ニ相成居候得ハ此所ニ御造立  
可有之歎抑臣謹方ニ身ヲ以重任ヲ辱ニ刺ハ返分  
ニ家祿ヲ賜ル顛墜ノ恐レ殆無所措身仍而家祿ニ  
内ニ就而聊現米二万石奉獻納度伏希ク臣力區  
區涓埃ノ微衷ヲ照鑒被為在右ヲ以テ太政官御造

建御用度ノ萬カカ一ニモ被為充候ハ臣ノ大幸其  
レ何ヲ以テカ之ニ如ク臣慶寧不堪感激懇祈  
至誠恐誠惶昧死以聞

辨官  
中

金澤藩知事

太政官御造建ノ御用度兼而 佛廟縁モ被為在  
度今般建言ニ上家祿ノ内二万石御用度ニ供  
度下之ニ趣神妙ニ被 思召願ニ通獻納被  
仰付事

太政官

大政官





皇國ノ大弊ヲ致ス所以ノ者ハ高法立ス貿易其法ヲ得ルニ  
坐ス其弊未ル一日ノ故ニ非ス唯其ヲ防クノ術ヲ得ス以テ今日  
ニ至ル然ルニ嚮者支那通信ノ約ニ外務ニ弁務使ヲ置キ此  
後更ニ通信使ヲ差遣波ト條約ヲ定メ彼地ニ適館ヲ創建  
シ云々辨務使ヲ置ニ至テハ我五港ノ貿易自ラ其法ヲ得ル已ナ  
ラス 皇國衰弊必ス自此挽回スヘシ顧フニ其機已ニ見ヘ其  
形已ニ成ル是誠ニ 皇國ノ一大盛事ニシテ其事ニ任スル者  
實ニ至大ノ重役トス然ルニ人情漸ク治安ニ狃レ怠惰ニ流レ  
因循持祿ノ念ヲ懷ク者少カラス若シ其任ニ當ル者其人ヲ  
得テハ挽 策却テ遺害貼突ノ拳トナラン夫レ事ノ  
成否ハ當初ノ一着ニ在テ當初一着ヲ誤ル奇傑者有ト雖  
モ其後ヲ善クスル能ハス故ニ是事ニ於テハ必ス臺負ノ立合與  
ル可ラス若 皇國第一等ノ人物其任ニ當リ萬一失

ナキヲ保ツト雖モ事ニ於テ如此輕ナル可カラス方今各國  
貿易ヲ主トスト雖モ我 皇國ニ於テ隣交ヲ重スル如此嚴重ト  
ルヲ知ラシムル亦善カラス乎且憲臺ニ在テ其立合ニ功アルヲ歎セ  
ス苟モ更ヲ畢ル後人ヲシテ有名無實ノ立合ト云シムルニ至ル亦  
皇國ノ一大幸ニシテ何トナレハ法律ハ人ヲ罪スルノ具ニ非スニテ  
恐慎ニテ罪ニ抵ラサシムルノ謂ナリ執法守律ノ要必ス此ニ外  
ナラス過失アルヲ待テ後テ之ヲ糾ス是何ソ天下盛衰ノ數ニ裨  
益アラシヤ古人云治ヲ未乱ニ制シ法ヲ未危ニ定ム故ニ憲臺ニ  
赫々ノ功アルハ善ノ善ナル者ニ非ス且條約ヲ以論スルニ各國大  
事件ノ應接ニ立合ノ法ヲ確立シ支那定約ノ事ニ於テ獨リ  
其立合ヲ用ヒスト云豈此理アリヤ故ニ今ニ於テ願クハ之ヲ  
朝廷ニ達觀シ其立合決議ヲ取り預シノ其人ヲ妙撰シ其事  
ヲ精究シ奴隸走卒ト雖モ必ス其才ヲ擇ヒ捐軀許國ノ心ヲ

持シ以テ其事ヲ監視セシ願クハ  
朝廷必ス此意アラシ然レ共通信使ニ於テハ必ス其立合ラ欲セス  
何ニトナレハ則チ時ノ患アル独任ニ專ニ如カス是レ其ノ深ク憂  
レ所ナリ凡事豫メ定メテハ方ニ成績ナシ伏シテ冀クハ之ヲ  
熟察セヨ

庚午十二月

一関藩句

芝書定ハ神保少治書藩部辻書不是也京教從五位上祖  
公辻書乃之直後系ハ大從位后東京任ト 何事ナリト云ハ辻書人  
ハ耕ハ汝何ニシト通リ不音名乃之書ハ方書乃有シ然レ公辻  
書ハ此亦書藩子ト云ハ辻書ハ京書藩入費リ局書方書也然  
レ藩乃之書ト云ハ京書乃稱書人ハ之ニ書其方書郡門書人  
郡外西條ト云ハ之ニ書此後之聞意也下底書存也

庚午十一月

一関藩

東京府中

書面ニ執五心志夜門書人ハ是廻リ西條ト云ハ事

守山藩句

或云宦牧藩

有切有氣云々右ニ云々守山實ニ精勤或ハ事及ニシテ職掌ニ在リ  
精ニ言有レテ即後群レ切後ニ云々其後ニ云々其後ニ云々其後ニ云々  
裁ト云々守山信云々不音名也

守山紙 一時ニ未定ト云ハ守山一可也事

守山ノ内ニ有レテ人有一ニ其地藩ニ表メテ其事 藩ノ内ニ有レテ  
守山ノ内ニ有レテ人有一ニ其地藩ニ表メテ其事 藩ノ内ニ有レテ  
守山ノ内ニ有レテ人有一ニ其地藩ニ表メテ其事 藩ノ内ニ有レテ  
守山ノ内ニ有レテ人有一ニ其地藩ニ表メテ其事 藩ノ内ニ有レテ

庚午十二月

守山藩

中身紙

何之道

不守極小之善子心身方何之乎也夫年書安有是也  
三善子為侯身不亦也

極難之何

一官部之當在之設計 諸君之各事 其用也 用年之屬和  
中用并之職身之各任在之役 其心得不亦也 善之善也  
一官部之當在之設計 其後之善 其用也 用年之屬和  
東言善之部 其用也 用年之屬和  
部之知事也 其用也 用年之屬和  
中用并之職身之各任在之役 其心得不亦也 善之善也  
候事 其用也 用年之屬和

一知事之當在之設計 諸君之各事 其用也 用年之屬和  
其用也 用年之屬和

知事之當在之設計 諸君之各事 其用也 用年之屬和  
其用也 用年之屬和

一私部之知事 其用也 用年之屬和  
其用也 用年之屬和

一官部之知事 其用也 用年之屬和  
其用也 用年之屬和

一官部之知事 其用也 用年之屬和  
其用也 用年之屬和





福を云ふ一割り是を孫志更に削減す加へて其

ソル事  
一 卒より一代の者たる華士民に向ては於て後を以て立て得  
ゆる事更に卒より一割を減す平民は做し得ざる者士族  
は法に准し福養の法を以て事

一 士族平民其福給の分つるに農工商各人民に活  
計業に歸し務給の関其唯士族を職業ヲ禁す事  
一 藩廳ヲ視テ一藩ノ民政司ト做し士族平民一般戸  
籍ノ法ヲ立つ事

右件ニ士族平民共厚なる得且福割を其籍を以て  
亦と其相違いの上此を以て事

午十二月

藩廳

一 士族の級ヲ以て廣くして改む禮義ヲ廢す事何れも  
旧より人民を約す法を輕更互に禮儀ヲ以て文防の  
一 こと大勿論にして男子を士風多し少年を學徒糧  
雜に流し易く勤まらざる根柢先業不振年々  
或は才力不足を以て其業を廢す事  
一 一 其尤凡俗の類に禮を承けず其心甚くして其  
一 一 其尤凡俗の類に禮を承けず其心甚くして其  
一 一 其尤凡俗の類に禮を承けず其心甚くして其  
一 一 其尤凡俗の類に禮を承けず其心甚くして其

午十二月

一 今般人民を物に以て士族常職の如く農工商各一  
活業として成國土報して天賦の法に士族平民各一

般之人也名(キ)係(キ)階級(キ)之(キ)位(キ)之(キ)高(キ)下(キ)之(キ)厚(キ)薄(キ)之(キ)相(キ)互(キ)之(キ)禮(キ)儀(キ)ヲ(キ)モ(キ)ル(キ)不(キ)及(キ)少(キ)法(キ)事(キ)

一 士族之禮名(キ)多(キ)射(キ)徑(キ)之(キ)儀(キ)也(キ)一 事(キ)

一 服(キ)色(キ)黻(キ)裂(キ)羽(キ)織(キ)並(キ)緇(キ)未(キ)洗(キ)之(キ)以(キ)弁(キ)各(キ)隊(キ)軍(キ)服(キ)也(キ)

一 臣(キ)事(キ)之(キ)禮(キ)尤(キ)特(キ)子(キ)制(キ)記(キ)也(キ)

但(キ)年(キ)民(キ)務(キ)上(キ)下(キ)之(キ)用(キ)務(キ)也(キ)以(キ)弁(キ)

一 官(キ)人(キ)及(キ)士(キ)族(キ)庶(キ)力(キ)務(キ)也(キ)以(キ)弁(キ)

但(キ)年(キ)朝(キ)ノ(キ)士(キ)民(キ)之(キ)節(キ)也(キ)或(キ)年(キ)民(キ)少(キ)於(キ)年(キ)帶(キ)刀(キ)也(キ)

一 事(キ)名(キ)勝(キ)年(キ)以(キ)弁(キ)

一 士(キ)族(キ)平(キ)民(キ)之(キ)為(キ)上(キ)下(キ)之(キ)以(キ)弁(キ)

但(キ)年(キ)民(キ)之(キ)為(キ)内(キ)外(キ)之(キ)也(キ)他(キ)亦(キ)其(キ)地(キ)之(キ)制(キ)也(キ)也(キ)

年十二月

諭告

夫(キ)人(キ)間(キ)之(キ)天(キ)地(キ)間(キ)活(キ)動(キ)物(キ)最(キ)貴(キ)重(キ)ナル(キ)モ(キ)ニ(キ)テ(キ)特(キ)ニ(キ)灵(キ)妙(キ)ノ(キ)天(キ)性(キ)ヲ(キ)備(キ)具(キ)シ(キ)知(キ)識(キ)技(キ)能(キ)ヲ(キ)兼(キ)有(キ)シ(キ)所(キ)謂(キ)万(キ)物(キ)之(キ)灵(キ)ト(キ)称(キ)ス(キ)ル(キ)固(キ)ヨリ(キ)士(キ)農(キ)工(キ)商(キ)ノ(キ)隔(キ)テ(キ)モ(キ)ナ(キ)ク(キ)貴(キ)賤(キ)上(キ)下(キ)ノ(キ)階(キ)級(キ)ニ(キ)由(キ)ル(キ)非(キ)レ(キ)ナ(キ)リ(キ)然(キ)ル(キ)ニ(キ)文(キ)武(キ)ノ(キ)業(キ)自(キ)ツ(キ)カ(キ)ラ(キ)士(キ)ノ(キ)常(キ)職(キ)ト(キ)ナ(キ)リ(キ)テ(キ)平(キ)生(キ)ノ(キ)廟(キ)堂(キ)ニ(キ)坐(キ)テ(キ)政(キ)權(キ)ヲ(キ)持(キ)シ(キ)一(キ)旦(キ)緩(キ)急(キ)ア(キ)レ(キ)ハ(キ)兵(キ)ヲ(キ)執(キ)リ(キ)乱(キ)ヲ(キ)搭(キ)ス(キ)ル(キ)等(キ)独(キ)リ(キ)士(キ)族(キ)ノ(キ)責(キ)ノ(キ)ミ(キ)ニ(キ)委(キ)シ(キ)国(キ)家(キ)ノ(キ)興(キ)亡(キ)安(キ)危(キ)ニ(キ)至(キ)テ(キ)ハ(キ)平(キ)民(キ)曾(キ)テ(キ)与(キ)リ(キ)知(キ)ラ(キ)ス(キ)坐(キ)視(キ)傍(キ)觀(キ)ノ(キ)勢(キ)ナ(キ)リ(キ)行(キ)キ(キ)ハ(キ)金(キ)中(キ)古(キ)封(キ)建(キ)制(キ)度(キ)ノ(キ)弊(キ)ニ(キ)テ(キ)貴(キ)重(キ)灵(キ)物(キ)ノ(キ)責(キ)ヲ(キ)士(キ)族(キ)ノ(キ)ミ(キ)ニ(キ)委(キ)シ(キ)賤(キ)民(キ)ヲ(キ)シ(キ)テ(キ)愈(キ)賤(キ)ナ(キ)ラ(キ)シ(キ)ノ(キ)以(キ)ナ(キ)リ(キ)方(キ)今(キ)王(キ)政(キ)一(キ)新(キ)宇(キ)内(キ)變(キ)革(キ)ニ(キ)基(キ)キ(キ)封(キ)建(キ)ノ(キ)舊(キ)ヲ(キ)變(キ)シ(キ)郡(キ)縣(キ)ノ(キ)政(キ)体(キ)ヲ(キ)正(キ)サ(キ)ント(キ)ス(キ)ル(キ)際(キ)ニ(キ)當(キ)テ(キ)當(キ)テ(キ)當(キ)テ(キ)當(キ)テ(キ)當(キ)テ(キ)今日(キ)大(キ)改(キ)革(キ)ノ(キ)令(キ)ヲ(キ)発(キ)ス(キ)ル(キ)固(キ)ヨリ(キ)朝(キ)昔(キ)ヲ(キ)遵(キ)奉(キ)シ(キ)王(キ)政(キ)ノ(キ)一(キ)端(キ)ヲ(キ)揭(キ)起(キ)セ(キ)ト(キ)欲(キ)ス(キ)レ(キ)ハ(キ)ナ(キ)リ(キ)故(キ)ニ(キ)首(キ)ト(キ)ノ(キ)從(キ)前(キ)士(キ)族(キ)文(キ)武(キ)常(キ)職(キ)ノ



貴ヲ廣ク民庶ニ推亘シ人間ノ階級ニヨラス貴重ノ灵物ナルヲ知ラシメ  
各自ニ知識技能ヲ淬勵シ人ニラノ自主自由ノ權ヲ与ヘ悉皆其志  
願ヲ遂ケシムルヲ庶幾スルノニ抑古ニ士ト稱スルハ有志有為ノ稱ニシテ  
必スシモ門閥ノ謂ニ非ス然レハ其灵妙ノ天性ニ原キ更ニ知識技能  
ヲ長進ニ報國ノ誠心ヲ尽シサントスルハ凡人タルモノ、天地间ニ逃レサル  
大義ニシテ殊ニ

皇國ハ人ノ資質純厚義氣最モ烈ニキ風俗アレシ今一段文明開化  
ノ道ヲ講習シ各所ニ学校ヲ興シ教育ヲ隆ニシ富強ヲ謀リ士民一  
般競起憤發ノ域ニ勸進セシメ大ニ習ヲ變ニ務テ新得ヲ求タス  
ハ天ニ當今ノ一大急務ニアラス我既ニ近頃普佛ノ戦争ニ佛國屢  
々敗ヲ取ルト至モ其民拳國憤興シ愈報國ノ志強ク其都府長  
圍ヲ受ケテ猶屈セサルヲ聞ケリ是亦人ヲ重ニスル制度ノ善ナルヲ

觀ニ足ル故ニ

皇國ヲシテ万国ニ對抗シ富強ノ大業ヲ興シ

ニハ全国億兆ヲシテ各自ニ報國ノ責ヲ懷カシメ人民平均ノ制度ヲ  
創ニスルニ若ハナシ若夫改革ノ條件其細目ニ至テハ性ニ布告ノ令  
ニ拠テ之ヲ詳ニスヘシ或ハ其意ヲ誤リ認メテ士族ハ文武ヲ廢シ安  
逸ニ耽キ平民亦其職ニ惰リ且徒ラニ士族ノ貴ヲ抑ヘ民庶ノ賤ヲ  
揚ル等ノ疑惑ヲ生ヘカラス唯今日宇内ノ形勢ヲ審ミシ  
朝廷大變革開明日新ノ事情ニ通シ人間貴重ノ責ヲシテ士族  
ニ限リ平民ヲシテ賤陋ニ歸セシムルハ大聲ヲ一洗シ唯人民自己ノ貴  
重ナルヲ知リ各互ニ恒心戮力富強ノ道ヲ助ケシムルハ大改革ニシテ畢  
竟民ノ富強ハ即政府ノ富強民ノ貧弱ハ即政府ノ貧弱ニ謂民アツ  
テ然後政府立テ政府立テ然後民其生ヲ遂ルヲ要スルノミ

一西平の報告

庚午十二月廿七日觸診を奉殿に願ひ申上り候事  
未だ此迄の心持をなすに余たなく也

後學 王公に侍奉する侍向持多振りしより徳川氏に  
号 王公に侍奉する侍向持多 朝廷に侍奉する侍向持多

弁髪ノ如キ也 綏伸諸臣に皆侍奉するに朱子ノ如キ家系ヲ  
給ふ攝孫ノ門閥ト雖モ少高家系ノ如クス波々トシテ

至テハ階級ニモ劣ルカ如シ貴族古臣故ヲ親戚ノ者ニ  
仰キ侍ルカ家計ヲ為スニ至ル不侍奉也是天下ノ所憫

志士ノ所歎今也 王公に侍奉する侍向持多 朝廷に  
シ綏伸文武ノ職ヲ執ル侍情ヲ以テ思フニ宜シク

福ヲ給ヒ給フ加ハ主トシテ 朝廷に侍奉する侍向持多

クハリ然レニ更始際ニ新弊ヲ除キ大舊ヲ改メ心ナクテ家  
祿ヲ減シ諸士皆削録セラル一ノ新弊革更張ル時  
宜シク如此ナレハキ也諸紳ノ如キハ 朝廷近臣須ク  
天下ニ先シテ 朝意ヲ奉ル自ラ其責ニ當ルハキ也  
朝廷ニ在リテ内外同視公平無偏ノ下分無シテ  
ルカラス者也 朝廷近臣私ニテ祿ヲ持テ存  
ルハ前古ノ覆轍ヲ招ク必然也今 朝廷革更  
福利ヲ定ムル不得止ノ議也諸臣宜シク 上意ヲ體  
得モ自ラ友者其分ヲ守リ勉勵スルカク我ヲ庶  
聖業ヲ了ラシメ扶者也

一西尾藩制

西尾藩制

一先收被 作出 朝意ヲ體シ藩制更ニ改革スル  
事ト不取設ニ向任ラ方トシ別紙如指墨法ヲ令ラ藩  
一 庶侍等ハ知事以下史生ニ至ト一ニテ法科ヲ振ヒ立  
一 殿右左輔助魁助ト上下ト任ラ直ニ士民共堵トテ  
一 公ヤウ臣事セシラ要ス故ニ今更ニ藩職者存ニ規  
一 則勲傳ヲ揚リ是其大程ヲ奉ルニ其御用ニ至テハ  
一 命家ヲ存シ評ニ定ムハキ事  
一 知事以下史生ト一ニテ法科ヲ振ヒ立ニ誠務取事  
一 一 院ニ在リテ藩制ニ事  
一 一 院ニ在リテ藩制ニ事



但願者の上を士族の隊に任ずる者も其隊に不出願  
之事

一 士族等以上の度以下士族以上の士族に准ずる事  
下之事

但願者に任ずる隊に任ずる者も其隊に不出願  
之事

一 目見以上の下に格下之事

一 院制に未だ度以下之事

一 士族等以上の度以下之事

一 不備多し四民互に縁但任す事

一 不立便に任ずる事

一 元故士族等用弁し他に任ずる事

其類は在り候也

一 士族に任ずるに在り候也

一 不備多し四民互に縁但任す事

一 元故士族等用弁し他に任ずる事

但願者に任ずる隊に任ずる者も其隊に不出願  
之事

大に可なり候也

之事

藩政

是則其の隊に任ずる者も其隊に不出願  
之事



人別其情若此者如之何且此亦送狀也

庚午月

吹上藩雁平

何多富源

中

表紙上書人別送状

